

# 令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立明石小学校

## 学校の教育目標

○進んで学びよく考える子	○力を合わせやりぬく子
○やさしく思いやりのある子	○健康でたくましい子

## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

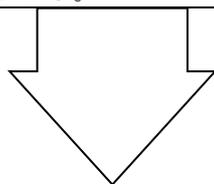
○基礎基本の定着（明石スタンダードに基づく学習規律、朝学習、夕やけ教室）
○思考力・判断力・表現力等の育成（児童主体の学習、言語活動を重視した授業）
○毎時間の授業の充実（分かる授業、できる授業、楽しい授業）

令和3年度「学習力サポートテスト」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	<p>○「学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は13ポイント、5年は9.7ポイント、6年は11.7ポイント上回っている。4年は4.5ポイント、6年は1.7ポイント区の平均も上回っている。</p> <p>▲漢字を書くことについて、5年は、区の平均を2.8ポイント、6年は10.7ポイント下回り、課題がある。</p> <p>▲「話すこと・聞くこと」に課題がある。自分の意見を発表する。話を聞いて、自分の意見を再構築するなどが弱い。</p> <p>▲自分の考えを文章に表現することや説明文を要約する力に課題がある。</p>	<p>○授業における自主的な学習態度と、家庭での学習習慣が身に付いている。</p> <p>▲習った漢字の反復練習が足りない。また、習った漢字を日常場面で積極的に活用していない。</p> <p>▲日常的に話を聞く習慣やスピーチする経験が少ない。</p> <p>▲日常的に自分の考えを文章に表現する場面が少ない。</p>
算数	<p>○「学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は13.7ポイント、5年は9.6ポイント、6年は11.8ポイント上回っている。4年は3.5ポイント、6年は2.7ポイント区の平均も上回っている。</p> <p>▲複雑な文章問題を解くことに課題がある。</p>	<p>○習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習の徹底により、個に応じた指導の効果が表れている。</p> <p>▲文章問題を読み取り、読み取ったことを整理して線分図や図に表したり、根拠の説明をノートに記述したりするなどの指導が不足している。</p>
社会	<p>○「学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は11.9ポイント、5年は8.2ポイント、6年は7.5ポイント上回っている。4年は2.4ポイント、6年は1.1ポイント、区の平均も上回っている。</p>	<p>○授業における自主的な学習態度と、家庭での学習習慣が身に付いている。</p>

	<p>▲資料を適切に読み取り、資料から考えることに課題がある。</p>	<p>▲資料の読み取りや、資料を活用した話し合いから、調べたこと考えたことをノートに記述するなど、ノート指導が徹底できていない。</p>
理科	<p>○「学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は2.6ポイント、6年は0.6ポイント全国の平均を上回っている。4年は1.6ポイント、5年は1.2ポイント、6年は1.7ポイント区の平均を上回っている。</p> <p>▲知識・技能を問われる問題に課題がある。5年は3ポイント、6年は0.5ポイント全国の平均を下回っている。4. 5. 6年ともに、植物の成長に関する知識の定着に課題がある。</p> <p>▲実験・観察結果から考察したり、結論に導いたりする思考力に課題がある。</p>	<p>○授業における自主的な学習態度と、家庭での学習習慣が身に付いている。</p> <p>○校内研究を通して、興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や、環境整備に努め、実験・観察を計画的かつ確実にやってきた成果が見られる。</p> <p>▲学んだことを復習し、定着させる場面が少ない。また、身近に自然環境が整っていないために、観察させる場面が不十分である。</p> <p>▲実験・観察の過程や結果から考察したことを記述するなど、思考を深めるための時間設定が足りない。</p>
英語	<p>○「学習力サポートテスト」において、6年は全国の平均を2.4ポイント上回っている。</p> <p>○英語に関心を持ち、楽しみながら学習に取り組み、自分の思いを伝えたり、聞き取ったりするコミュニケーション力は育っている。</p> <p>▲文字認識が不十分で、正しく書く力に課題がある。「学習力サポートテスト」において、6年は「アルファベットの書き」が全国の平均を2.4ポイント下回っている。</p>	<p>○ALTやJTEと打ち合わせを行い、連携を図りながら、授業を進めることができた。</p> <p>▲アルファベットの学習に時間をかけ、毎時間アルファベットの学習を取り入れるなど、大文字、小文字が正確に書けるための学習時間が少ない。提示する絵カードなども文字を入れるなど工夫が足りない。</p>
体育	<p>○50m走は、全国および区の平均を上回っている。</p> <p>▲長座体前屈（体の柔らかさ）に課題がある。</p> <p>▲ソフトボール投げに課題がある。</p>	<p>○マイスクールスポーツの効果として巧緻性の高まりを感じられる。</p> <p>▲体づくり運動で継続して体の柔軟性を高める運動場面が少ない。</p>

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力を定着させ、各テストにおいて区の平均を全学年で上回るようにする。</li> <li>・全児童が毎日の授業において1回は発表する場面を増やしていく。</li> <li>・毎朝10分間の朝学習、朝読書を計画的に実施し、落ち着いた雰囲気の中で一日がスタートできるようにする。</li> </ul>
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて、児童の主体的、対話的で深い学びを促す授業づくりを実践する。</li> <li>・年間を通じて、考えたことをノートにわかりやすく表現するノート指導の徹底を図る。</li> <li>・タブレット端末や実物投影機を始めとするICT機器を効果的に活用した授業を展開し、個別学習、グループ学習、一斉学習で個の学びが深まる授業展開の工夫を行う。</li> </ul>
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に2回以上互いの授業を見合う参観日を設け、グループでふり返りを行う。</li> <li>・月に1回OJT講座を開き、授業力向上を図る。</li> <li>・OJT講座の中で、タブレット端末や実物投影機を始めとするICT機器の効果的な活用法を学ぶ場を設定し、授業で活用できるようにする。</li> </ul>
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春と秋の個人面談、年間4回の保護者会等を活用し、家庭と十分に連絡を取り合って、家庭学習を確実にを行うようにするとともにその定着を図る。</li> </ul>
⑤ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイスクールスポーツである「なわとび（短縄・長縄）を活用する。</li> <li>・中休みや昼休みに外遊び時間の確保をする。</li> <li>・体育学習発表会や隅田川テラスマラソンに向けての取り組みを充実させる。</li> </ul>



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の聞き方や発表の仕方の約束（明石スタンダード）の徹底を図る。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜日の朝読書の時間や図書の間では、物語または小説の読書とし、まとまった文章に親しませる。</li> <li>・毎週水、木曜日の朝学習の時間は、タブレット端末やドリル等を活用し、個別の課題に取り組みせ、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入を工夫し、問題解決的な学習過程を取り入れる。</li> </ul>

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習導入時の教材の提示方法や発問を工夫し、児童の「知りたい」「考えたい」という思いを引き出す主体的な授業づくりを目指す。</li> <li>・考え方のスキルを活用した小グループでの話し合いを通して、さらに個の思考が深まる授業づくりを目指す。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。</li> <li>・理科においては、既習の実験・観察の過程や結果を根拠として個の考えをもった上で、話し合いを行う。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末や実物投影機等の ICT 機器を積極的に活用し、授業の効率化や知識の定着を図ることができるようにする。</li> </ul>

③教員の指導力	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT や学年会を通して、教材理解・教材研究を行い、全教科で言語活動を重視した授業を実践できるようにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究を通して、理科の問題解決学習の効果的な展開方法を学び、実践できるようにする。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT を通して、タブレット端末をはじめとする ICT 機器を活用した授業展開の様々な方法を学び、授業場面で活用できるようにする。</li> </ul>

④家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月と10月に個人面談を実施し、児童の学習の状況を把握したり伝えたりし、家庭との連携を図る。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りや保護者会等を活用し、家庭との連携を深め、児童に家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開やホームページ掲載等により、本校の教育活動を発信し、理解を深める。</li> </ul>

⑤体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育的行事委員会を中心に長なわ跳びや短なわ跳びへの取り組みを計画し、年間を通して取り組むようにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中休み、昼休みは、ソーシャルディスタンスに気を付けて、校庭遊びは2学年、屋上遊び、体育館遊びは1学年ずつ行い、体を動かせるように、体制を整える。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学習発表会や隅田川テラスマラソンに向けて学習カードを作成し、児童一人一人がめあてをもち意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>

## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の仕方の基礎・基本（明石スタンダード）の徹底を図ったところ、落ち着いて話を聞く態度が身に付いてきた。</li> <li>・タブレット端末やドリル等を活用して、計算や漢字練習に繰り返し取り組むことにより、基礎学力の定着を図ることができた。</li> <li>・朝学習、朝読書の習慣が身に付き、朝から落ち着いた態度で学校生活をスタートできるようになった。</li> <li>・年間2回の読書旬間を行うことにより、親子で読書に親しむ機会を設定することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲コロナ禍でマスクを着用していることも重なり、自分の考えを相手に伝わるようにはっきり発表できるようにすることが課題である。</li> <li>▲学習中姿勢が乱れ、しっかり話を聞くことができない児童が多い。</li> <li>▲書く力や学習したことを発信する力をさらに身に付けていく必要がある。</li> <li>▲読書については、個人差が大きく、朝読書や図書の時間を有効活用し、本の紹介や読み聞かせを充実させ、読解力を高める必要がある。</li> </ul>
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を活用し、授業導入時の教材提示を効果的に行うことにより、児童に学習への興味・関心をもたせ、主体的に学習に取り組む児童が増えた。</li> <li>・タブレット端末を有効活用することにより、グループや学級全体での情報共有が効率的にできるようになった。</li> <li>・理科の学習では、問題解決学習の流れが定着し、問題づくりや既習事項を基にした根拠のある予想を立てる力が育ってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲タブレット端末の活用により、情報共有のみならず、情報共有したことを基に話し合う力を身に付けて付けていく必要がある。</li> <li>▲学習場面に応じて、ノートとタブレット端末をどのように使い分けて活用することが効果的か検討していく必要がある。</li> <li>▲理科の学習においては、知識の定着に課題がある。</li> </ul>
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で教材研究や指導法、タブレット端末の効果的な活用法について情報交換し、日々の授業の充実を図ることができた。</li> <li>・OJT講座や授業参観を通して、互いに学び合うことができ、指導力向上に効果的であった。</li> <li>・校内研究を通して、生活科・理科の授業の充実を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲互いに授業を見合い、授業力を高めるための時間を確保する工夫が必要である。</li> <li>▲タブレット端末の有効活用について、学校全体で定期的に情報交換し、互いに学び合う場の設定が必要である。</li> </ul>
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回、全家庭と個人面談を行ったことにより、情報を共有でき、家庭との連携が図れた。また必要な家庭には、個人面談以外でも連絡をとり、共通理解を図ることができた。</li> <li>・学校便りや学年便り等を通して、家庭と連携を図り、家庭学習の協力を得る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲保護者会は、学校からの情報発信のみならず、保護者からの意見や保護者同士の交流の場も設定できるように工夫していく。</li> <li>▲タブレット端末を活用した情報発信の方法をさらに検討していく必要がある。</li> </ul>

	<p>ことができた。また、学校便りや学年便りは、GoogleのClass roomも活用し、保護者に配信することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを定期的に更新し、学校生活の様子を保護者に伝えることができた。</li> <li>・安全・安心メールを通して、保護者に必要な情報を瞬時に伝えることができた。</li> <li>・タブレット端末を活用し、コロナ禍で実施できなかった音楽会の代わりとなる動画配信や各学級・学年での学習の取組の様子を伝えることができた。</li> </ul>	
<p>⑤ 体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびカードの活用や動画配信、学期1回の長縄記録会の実施を通して、児童はマイスクールスポーツに意欲的に取り組むことができた。</li> <li>・ソーシャルディスタンスに気を付けて、屋外遊びの日は体を動かして遊ばせることができた。</li> <li>・体育学習発表会では、表現及び短距離走を実施し、児童の頑張っている様子を保護者に公開することができた。</li> <li>・隅田川マラソン大会の代わりに、持久走、エアロビクスダンス、短縄跳びに取り組ませることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲短縄の取り組みについては、個人差が大きいため、児童の意欲を高める工夫が必要である。</li> <li>▲相互に演技を見合う等、体育学習発表会のよりよい在り方を検討していく。</li> <li>▲コロナ禍で、運動の機会が減ったため、体力向上に向けたさらなる指導の工夫が必要である。</li> </ul>